withコロナ時代の国際交流に向けて

学長　黒田 由彦

2022年4月から学長職を拝命いたしました。4年間、よろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍の終息にはまだほど遠いとはいえ、withコロナ時代に入り、わたしたちは現在海外留学を本格的に再開する入り口に立っています。そこでまず椙山女学園大学における留学の状況について振り返っておきたいと思います。

本学の海外留学は6つのプログラムで構成されています。①学部プログラム、②交換留学、③派遣留学、④協定校サマープログラム、⑤認定留学、⑥私費留学、以上です。この6つのプログラムの留学者の年間総数は、下の表にありますように、2016年に207人だったものが、2017年は230人と増加し、2018年は228人と微減したものの、2019年は20%以上増加して282人でした。留学先の内訳を見ても、地域的にはヨーロッパ、アメリカ、東南アジア、オセアニア、東アジアと広がりを見せ、言語的にも英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語と、多様性に富んでいます。留学は、量の点でも質の点でも、概ね順調に発展していたと言えると思います。

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
アメリカ	28	24	17	27
カナダ	42	25	50	23
オーストラリア	69	48	59	72
ニュージーランド	11	14	8	4
イギリス	4	3	2	6
シンガポール	0	18	0	22
フランス	6	27	35	40
ドイツ	7	8	14	20
アイルランド	0	1	1	1
中国	19	16	3	15
台湾	0	6	17	2
韓国	13	29	16	28
タイ	2	11	4	20
マレーシア	0	0	0	2
フィリピン	6	0	2	0
合計	207	230	228	282

ところが、コロナ禍によって、留学は頓挫を余儀なくされました。2020年と2022年の二年間、留学者はゼロとなりました。今年度は現時点で34人ですが、2016-2019の平均留学者数のわずか15%にとどまっています。

すでに短期で行う大人数の海外研修をコロナ禍前に戻して実施した大学もあると聞いています。2023年度は本学においても海外留学を本格的に再開する年にしようと考えています。

2024年4月からは国際コミュニケーション学部が外国語学部に改組されます。新しい外国語学部では、原則として全員が海外での短期研修プログラムに参加しますので、海外で学ぶ学生の数が飛躍的に増加することが確実です。

それらの動きを見越して、昨年4月に就任された笠原国際交流センター長の下、海外留学生大量時代に対応できるように、学内体制の整備を進めています。

海外に興味のある学生のみなさんが留学を通して自分自身の成長を実感する—それを実現できるよう、これからも大学として尽力してまいります。

（2022年12月13日）

交換留学生のレポート

オーストラリアでの生活

石黒 桜雪（国際言語コミュニケーション学科2年）

私は2022年9月から派遣留学生としてオーストラリアのサザンクロス大学に通っています。留学先にオーストラリアを選んだ理由は、高校生の時に語学研修でブリスベンを訪れた際にオーストラリアに惹かれ、大学生になったらオーストラリアに留学に行くぞという強い気持ちがあったから、そして観光大国のオーストラリア・ゴールドコーストで観光学の勉強がしたかったからです。出国前は新型コロナウイルスの状況も不安定で入国できるかどうか不安でしたが、無事に留学生活を送っています。

現在、語学学校で現地の授業を受けるためにアカデミックな英語の勉強をしています。毎日、様々な国籍、様々な年齢のクラスメートと同じクラスで授業を受けているので、文化の違いや考え方、言葉の違いを知ることができて毎日刺激を受けています。日本に訪れたことがある先生が多く、日本の文化の話で盛り上がります。また、休み時間には他のクラスメートの言語で挨拶を練習したりして、多くの言語に触れられるのが語学学校の良いところです。長くオーストラリアに住んでいる生徒もいるので、美味しいレストランを教えてくれたり、困ったことはない?と親身に聞いてくれたりするので、安心して楽しく生活しています。

私が留学しているゴールドコーストはきれいなビーチがたくさんあり、観光名所もあり、なおかつ自然が豊かでのんびりしているので、休みの日にはのびのびと過ごしています。ブリスベンの市街地へは電車で1時間程度なので、休日に気軽に遊びに行くことができます。

これからも私の留学生活は続きますが、今後も夢に向かって日々努力を続けたいです。

私が韓国交換留学を経験して

木全 真夕（文化情報学科3年）

私は3年生の前期に韓国にある順天郷大学校という、ソウルから離れている大学に留学しました。その大学はまだ椙山女学園大学との協定が浅く、私は3期生でした。私がなぜ韓国留学を決めたかというと、中学生の頃から韓国に留学することが夢だったからです。交換留学先はソウルになく、不安が沢山ありながらも交換留学生の選抜試験を受験しました。しかしその後、新型コロナウイルスが流行し、海外渡航ができない状況になり、再開の目処も立たず私の夢は先が見えなくなりました。退学を考えたこともありましたが、留学再開の通知が来た時、やっと夢が実現できると思いました。

ようやく渡航できた当時は、まだ新型コロナウイルスによる入国規制が厳しく、隔離施設に1週間滞在後、大学の寮に移動しました。寮は6人での共同生活で、リビングなどを挟んだ反対側にももう6人が共同生活していました。反対側にはフランスとフィンランドの方が住むことになり、言語を教えてもらったり、日本のお菓子あげたり、とても楽しかったです。しかし同時に衛生面の感覚の違いで苦労するなど、大変な面もありました。ただ、このような経験を通じて、自分の適応能力が上がったと感じます。

授業が始まると、たくさんの友人ができとても充実し始めました。さらに、エクスチェンジという韓国人とZOOMをする機会があり、そこで韓国人の友人を作りました。また同じクラスにはウズベキスタン人が多く、仲良くなった友人はイスラム教を信仰していたため、私が知らない文化を沢山教えてくれました。日本では宗教について学ぶことは少なく、とても関心が湧きました。留学先の国際センターの方や授業の先生と意見が合わず、話し合う機会も多かったですが、良い経験になりました。全てが楽しかったわけではありませんが、留学を経てとても成長できたと感じています。様々な国の人たちと出会い、日本の文化や生活、考え方の違いなど多くのことを学びました。

最後に、私は椙山女学園大学から順天郷大学校に留学に行けてとても成長し、多くの思い出ができました。この思い出は一生もので宝物です。留学をサポートしてくださった皆様、支援してくれた家族、友人に感謝の気持ちでいっぱいです。夢を叶えた今は、就職活動真っ最中です。留学で得た経験を糧に、今後も突っ走っていこうと思います。

画像・映像のイメージと実物のギャップ

田中 一輝
（文化情報学部文化情報学科 講師）

海外渡航未経験の人が、まだ行ったことのない国をイメージしようとする場合、まずは関連の書籍･テレビ番組やインターネット、最近ではYouTubeなどの動画サイトやSNSを閲覧し、例えばその国の街並みや観光地などに関する情報を仕入れ、それに基づいてその国のことについてあれこれ考えると思います。しかしそうしたツールを介してイメージしてから、実際にその国に行って実物を見てみると、そのギャップに驚くケースが多く発生します。

例えば私はまず中国･北京に行きましたが、中心には有名な故宮紫禁城があります。これもインターネットや動画サイトでよく見ると思いますが、実際に行ってみるとかなり広大な宮殿であり、圧倒されてしまいました。またその後は中国の西安に行きました。西安は昔は長安と呼び、前漢や唐といった王朝の首都として栄えたところであり、市街地の北西部には前漢長安の町全体の遺跡がそのまま保存されています。行ってみるとやはり広く、メインの宮殿の土台が残っているのですが、それがかなり巨大で高く、この土台の上に宮殿を建設したとなると、見る者を圧倒するほどの規模であったことが想像されます。とにかくいろいろなものが大きく広い、そんな印象でしたが、それを行ったことのない人に言語化して説明しようとしても、その感覚を共有するというレベルまでは、なかなかうまく伝わりません。実際に行って見てみる、経験してみるということは、この情報化の時代においても、少なくとも初歩の段階では依然として重要なことだと思います。逆にある程度中国に行ってみてから動画サイトなどで、中国の、自分がまだ行ったことのない街や観光地の紹介を見ると、「ああ、ここはこういったところなんだろうな」というリアルなイメージができるようになります。

2020年からのコロナウイルスの流行により、国際交流は一時かなり深刻な打撃を受けましたが、近年徐々に多くの国々で渡航規制が緩和されてきており、従前の交流が復活しつつあります。椙山女学園大学の学生の皆さんも是非、留学などを通じて、行って見る、経験することを通じて自らの知見を広げ、深めてください。

受入交換留学生 活動レポート

受入交換留学生はどのような学生生活を送っているのでしょうか。
2022年度の留学生を例にご紹介します。

学長表敬訪問

椙山に留学に来たら、まずは学長訪問です。笠原国際交流センター長、宗林留学生教育コーディネーターとともに黒田学長を訪問。日本で、そして椙山でどのようなことを勉強したいのかや将来の夢などについて話しました。学長からは、勉強だけでなく人とのつながりを大切にしながら、課外活動や日本文化に触れられるイベントへ積極的に参加して、有意義な時間を過ごしてください、と温かいエールが送られました。

授業風景

文法や語彙・表現など技能別に日本語を学びます。この日本語の授業はintermediateとpre-advancedの2クラスあり、習熟度に合わせてクラスが振り分けられます。日本語の習熟度が上がると日本語で開講されている学部の授業を受講できるようになります。受入交換留学生は、書写・書道や日本やアジアの文化、観光、マーケティングなど、多種多様な授業を履修しています。また、英語で開講されている授業も受講しています。

学校生活以外にも…

授業や大学のイベント等がないときには、週末に名古屋城をはじめとして様々な名所や東京などの他の都市を訪れ、日本を体感しています。

日本文化体験

交換留学生には学外研修で、日本文化の体験実習に取り組みます。2022年度は一泊二日の奈良研修旅行を実施しました。お寺の見学や和菓子作り体験などを通して、日本の伝統文化や古代奈良の歴史、文化、産業、生活を学びました。日帰りの友禅染体験では、本学の所在地である地元名古屋の伝統工芸を体験し、日本文化に触れました。他にも、岐阜県の郡上八幡へは紅葉の季節に研修に行き自然に触れたり、夏の風物詩である郡上踊りを体験したり、郡上八幡城を見学しました。こういった学外研修には椙大生も参加するため、留学生にとっては日本語での会話の実践の場になっているだけでなく、留学生と椙大生の双方にとって国際理解や異文化交流の機会になっています。

留学生サポーターズ/スタディメイト

椙大生が交換留学生の学生生活をサポートします。留学生サポーターズ制度とスタディメイト制度があり、留学生サポーターズは、受入交換留学生のサポートをしたい、交流を深めたいという学生が参加し、学外研修への同行やSUGIYAMA Café、季節ごとの各種イベントを企画・実施します。2022年度はお正月について紹介したり、浴衣の着付け体験やクリスマス会を行いました。また、スタディメイトは、週に1回、留学生の宿題のサポートやお互いの国の文化や流行の紹介などを行います。武道体験や活動の中で学んだ名古屋の名所を実際に見に行くなど、学外で活動することもあります。

タスマニア大学留学フェアへ参加

8月26日（金）、笠原国際交流センター長は協定校であるオーストラリア・タスマニア大学を訪問し、留学フェアに参加しました。本イベントは、海外留学を希望するタスマニア大学の学生に対して直接説明し、本学への留学生を募ることが出来るものです。

当日は、本学への交換留学経験者のテイーニー ケイリーさん、スキアズ オリビアさんがサポートとして参加。プレゼンテーションの時間には、経験者だからこそ語れるエピソードを披露してもらいました。その話を聞いて本学への留学に興味を持ったタスマニア大学の学生が本学のブースを訪れるなど、留学経験者によって本学と協定校の縁が続いていくことを実感する機会になりました。

ウェスタンミシガン大学との協定締結

10月21日（金）、アメリカのウェスタンミシガン大学より国際交流担当のYing先生と、8名の大学関係者が本学を来訪されました。本学からは椙山理事長、黒田学長のほか、学長補佐や国際交流センター長、プログラム担当教員が迎えました。

今回の訪問は二部制で実施され、第一部の分科会では、担当教員が中心となり、各留学プログラムの進め方や留学条件などの詳細について確認しました。第二部では、派遣留学、学部開講の海外留学プログラムに関わる協定を締結しました。この協定に基づき、本学学生が海外の大学で学ぶ機会がより一層、増えることとなりました。

今後は、留学生の早期派遣開始に向けて準備を進めていきます。

「CIEP便り」始動

国際交流センターでは、以前より国際交流センター管轄の留学プログラムに関する情報サイトを開設していますが、2021年度に「CIEP便り」と題した情報サイトの運用を始めました。

従来のサイトでは、各留学プログラムの説明や国際交流センター報の掲示、本学への留学希望者向けの案内等を行っています。対して「CIEP便り」では、本学や協定校が開催するイベントや、外部団体が提供する国際交流イベント等、より幅広い内容を発信しています。

今後は、留学中の学生による現地レポートなど、留学へ興味を持ってもらえるような内容も掲載していく予定です。

受入交換留学生レポート

広い世界を見に行こう

オウ ゲイ（上海師範大学）

上海師範大学のオウ ゲイです。2022年の4月から9月まで約5か月間、椙山女学園大学に交換留学でお世話になりました。

帰国して4年生になり、就職活動にも追われています。振り返ってみれば、日本にいた時間は本当に楽しい時間でした。

帰国して周囲から、「お金と時間をかけて、本当に留学に行った意味があるの?」「苦労ばかりで後悔していないの?」等々聞かれました。確かに、コロナウイルス感染が蔓延するなか、留学は本当に大変でした。特に当時ロックダウンの上海で何回かのフライトキャンセルに遭い、もう駄目だという最悪の事態に陥りました。それでも「日本に行きたい」という気持ちで乗り越えることができました。その苦渋の経験のおかげで、現在の成長した自分がいるとつくづく思います。

この留学で得られたものは、数えきれません。まずは日本語力です。最初は自分の日本語に自信がなく声を出すだけで顔がすぐ赤くなりました。椙山での生活が始まり、日常生活のやりとりを周りの方々が優しく聞いてくれて、日本語を話す勇気、さらに自分を表現することに段々自信を持つようになりました。

また、日本の生活の中で日本人の優しさを実感しました。先生や周りの皆さんにいつも優しくしてもらっていましたから、自分から他人に優しくしてあげる能力も高まったと思います。帰国してから性格がすごく明るくなったと皆さんに評価されています。

留学する前は親元を離れ上海で生活していましたが、留学生活を体験してもっと自立したと思います。外国での生活は日々挑戦することが多く、新しいことに向き合い困難を乗り越えて一つ一つに自信が持てるようになりました。自分なりの暮らし、時々襲われる孤独感、それを克服する段々甘えを捨てて自分が責任を負っていく心、意識しないうちに成長してきたなと感じました。

日本にいる時間が短かったですが、今まで慣れている生活環境から出て、様々な人に接して、この世界の多様性や面白さを見てきました。視野が広がり、心も広くなりました。中国に戻りましたが、日本語の勉強はもちろん引き続き頑張っていきます。椙山から色々いただき、これからも優しくて立派な人になっていきたいと思います。

ようこそ椙山へ ～留学生の自己紹介～

◆スパープ シリラックさん

タイのスィーパトゥム大学から来ました。専門は日本語ビジネスコミュニケーションです。これから1年間、一生懸命日本語や日本文化について学びたいと思います。そして日本人の習慣や日本人の考え方ももっと理解したいと思います。

◆ウーイ ユーチさん

マレーシア科学大学からまいりました。専門は経営学です。日本語をしっかり勉強して、異文化を学び、友達を作り、自由な時間に日本中を旅行して色々な経験がしたいと思います。

◆リュウ ユンシンさん

台湾のアジア大学から参りました。今回、自分の日本語をもっと上達させたいという思いで留学しました。何かを成し遂げるために努力することが必要だと思います。半年という短い留学ですが、充実した時間を過ごしたいと思います。

◆ドイジャルーン ナッパソンさん

子どものとき、アニメの中の色々な日本の食べ物を見たり日本の文化を感じたりして、日本に興味を持つようになりました。夢がかなって、タイのスィーパトゥム大学から留学生として日本に来ることができました。日本語が上手になることはもちろん、もっと様々な日本の文化や日本のマナーを学びたいと思っています。

ようこそ国際交流センターへ

◆第一回インターナショナルサロン開催◆

6月22日（水）に第一回インターナショナルサロンを開催しました。このインターナショナルサロンでは、交換留学生や私費留学生から梢大生に対して留学の体験談を語ってもらうことで、留学に対する理解やモチベーションの向上、留学生と梢大生の双方の交流の場の提供を目的として開催しており、今回が初の試みです。第一回では「キセキ!!梢山に留学生がやってきた-外国人留学生の体験談-」と題して、交換留学生、学部留学生、大学院留学生の3名の留学生をゲストスピーカーとして迎え、日本に来たきっかけや留学の目的、新型コロナウイルス感染拡大により、入出国制限が行われている今、来日するまでの苦労話を語ってもらいました。参加した本学の学生からは多くの質問があり、活発な意見交換の場となりました。新型コロナウイルスの影響で留学生と梢大生が交流する機会が以前より減っていましたが、今回のイベントをきっかけに交流の輪が広がりました。

編集後記

第14号をお送りいたします。執筆・編集にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルスの影響で国際交流の機会が減少していましたが、喜ばしいことに本学においては交換留学が復活しました。今年度は、初めての受入となったマレーシア科学大学をはじめとして4大学から計5名の留学生をお迎えしました。梢山女学園大学からは、韓国の順天郷大学校など6大学で計19名の学生が交換・派遣留学生として迎え入れてもらえました。今年10月、新たにアメリカのウェスタンミシガン大学と協定を締結しましたので、今後の交流が大いに期待できそうです。また、初めての試みとなる「第一回インターナショナルサロン」を開催し、3名の留学生のゲストスピーカーに対し活発な意見交換が行われました。国際交流センターは、本学の国際交流のさらなる充実に向けて、活動をしていきます。センターへのご意見・ご感想などお寄せいただければ幸いです。

（2022.12.19 Y.O）

■ご意見・ご要望などはこちらへお寄せください。
梢山女学園大学国際交流センター　TEL：052-781-5674（直）　FAX：052-781-2038　E-mail：ciep@sugiyama-u.ac.jp

A Window Open to the World 梢山女学園大学国際交流センター報　**第14号**　2023.3

編集・発行　梢山女学園大学国際交流センター
〒464-8662　名古屋市千種区星が丘元町17番3号
〈TEL〉052-781-5674（直）　〈FAX〉052-781-2038
〈URL〉https://www.sugiyama-u.ac.jp/ciep/